

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0173800525		
法人名	株式会社 イワクラ		
事業所名	グループホーム ゆーあい天馬		
所在地	〒056-2402 新冠郡新冠町字中央町17番地の11 (電 話) 0146-47-1111		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年10月23日	評価確定日	平成21年12月15日

【情報提供票より】(平成21年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 13人 非常勤 10人 常勤換算 9.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	19,000~26,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(10月5日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.56 歳	最低 78 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新冠町立国民保険診療所 医療法人静和会石井病院 新冠ファミリー歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、太平洋に臨み、周りには新しい街並みが形成されている一角に立地している。職員のケア能力は高く、事業所の理念を理解し、利用者への対応及び家族への支援を提供している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題である地域との関係強化を検討しているが、実現には至っていない。また、ターミナルケア指針についても、引き続き検討課題としている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が 項目を分担して自己評価に取り組み、仕事の見直しと認識を新たに組み込むきっかけとして捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議では、事業所の運営についての報告が主となっており、運営の改善に活かせる討議内容とまではなっていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情申立機関等は、重要事項説明書に明記している。また、家族の意見、不安への対応は、家族の来訪時の聞き取りや、随時の電話連絡で行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日中、地域の家々は不在が多く交流が難しいが、可能な限り、地域行事へ参加するよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を重視し、これまでの生活習慣を維持した安らぎのある日々を目指した、事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間の目につきやすい場所に理念を掲示し、管理者、職員共に理念の共有化に、熱心に取り組んでおり、利用者一人ひとりへの対応には細かい配慮がうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の行事や花見等に参加し、地元のフラダンスサークルを招いての交流などを行っているが、新興住宅街のため、日中は在宅者が少なく、頻繁に交流するまでには至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は項目を分担しながら全職員で取り組んでおり、仕事の見直し、認識を新たにする良いきっかけにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議2ヶ月に1回開催しているが、最近では事業所の報告事項が多く、運営の改善などサービス向上につながるまでには至っていない。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議やヘルパーステーションへの連絡時には、町福祉課の担当職員、社協職員と懇談し連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、月1回の定期連絡に加え、個人別便りにより報告している。利用者の変化時も随時電話連絡するなど、密な連絡を心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に職員は熱心に声かけを行い意見等を聞くようにしている。また、苦情等の外部申立機関は、重要事項説明書に明記されているので利用しやすい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交代が多いことは、利用者及び家族の安心への影響が懸念される。	○	管理者の異動を最小限に抑えけるとともに、代わる場合は、利用者へのダメージが最小限のものとなるよう取り組まれることが望まれる。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまでの行ってきた内部・外部研修は、職員のスキルアップに繋がっている。資格取得に取り組んでいる職員もいる。管理者は、職員が研修に参加できるようにシフトを組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日高グループホーム協会に属し、同業者との交流を深め、認知症対応やサービスの質について意見交換会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたっては、できる限り訪問活動を実施し、事前見学と丁寧な説明を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸活動は年交代で責任ユニットを決めて楽しみごととしている。掃除、洗濯物たたみ等利用者の能力に応じて職員と一緒にしている。また、利用者の昔の話を聞く等、会話の時間を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前から、利用者の意向、家族の希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員によるケアプランに基づき、日々の生活記録を参考に、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎の介護計画書はきちんと整備しており、状態変化による見直しは、申し送り等で随時行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院介助ほか、希望の外出支援を行うなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調に変化のある場合には、その都度かかりつけ医に連絡、相談をし、指示を受けるなど、適切な受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への懸念はあるが、各医療機関との連携は取れているので、状況変化には対応できる体制である。しかし、指針等の整備までには至っていない。	○	終末期に向けたあり方について、その指針を整えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にした対応を徹底しており、氏名をローマ字にするなど記録の取り方にも工夫がみられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話や行動から、利用者の希望を把握するよう努めている。その日の体調を考慮しつつ、希望にそった支援ができるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事できるよう雰囲気作りを大切にしている。また、利用者は職員とともに、準備や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常、入浴日は、週3回、午後からと決めているが無理強いはず、利用者の希望に合わせた入浴体制を整えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の重度化が進む中で、それぞれができる洗濯物たたみや畑仕事など一人ひとりの生活歴や力を活かした役割をもつよう支援している。また、気晴らしに日光浴等を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、イベント参加、温泉行等を楽しめるよう支援している。また、天候によりドライブへ出かける機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。防犯上、夜勤帯である午後8時～午前7時は施錠している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーを設置することとしている。年2回の避難訓練を実施しているが、昼間のため近隣の参加が難しい。	○	災害は日中とは限らないことから、夜間想定訓練計画の実施を期待したい。また、本当の災害時には地域住民の協力が不可欠であることから、地域住民との協力体制の構築についても期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事及び水分摂取量は記録している。メニューは、その日の職員が担当し、必要に応じ栄養士に指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と和室との仕切りも段差がなく、庭へ向いての窓、開口部の採光も良く、くつろげる空間になっている。また、車いす利用者のための可動台も無理のないよう設置している。なお、車いす利用者が増加していることから、車いす対応の手洗い場などの工夫が必要となっている。	○	車いす利用者が多くなっていることから、車いす対応の手洗い場設置などが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に飾りつけを施したり、ベッドの配置や、家具等の持ち込みも自由となっている。各室に洗面台も付いていて、使い勝手の良い居室である。居室入り口のドアには、部屋間違いを防ぐ配慮もしている。		

※  は、重点項目。